

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名：

大学院保健学研究科

部局長名：

竹田 芳弘

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域 ①-1 目標 博士前期課程、後期課程とも定員の充足を維持する。休学者や長期履修者が修了できるよう研究指導体制を強化する。 研究の中間段階で「課題研究発表会」の実施などにより、指導教員以外の者の意見を聞き、研究の質の向上に努める。最終的には学位論文のレベルアップを図り、後期課程においては査読付英文誌への投稿を推進する。 前期課程、後期課程の志願者及び入学者の動向と学生の修了率、学力、研究成果の公表、修了後の進路状況、学力、研究成果の公表、修了後の進路状況と社会的活動、教育効果等を検証する。 がん看護専門看護師養成コース、助産師養成コース、医学物理士養成コース、放射線安全・医療応用学コースなどのコースワーク主体の事例を推進し、これらのコースの教育内容の充実と教育体制の強化を進める。特に前期課程の助産学コースの充足と修了者の資格獲得を推進する。また、がん看護専門看護師養成コースでは授業科目を38単位コースにする。 生殖補助医療技術キャリアー養成特別コースは学部・大学院一貫体制で教育し、修了者及び胚培養士の資格取得を推進する。	自己評価 <ul style="list-style-type: none"> ・28年度の入学予定者は博士前期課程29人(定員26人)、博士後期課程9人(定員10人)であり、定員充足は概ね達成できている。 ・学位審査会を3分野でそれぞれ公開で行い、公正に論文審査をした。 ・学部から大学院に移行した助産師養成コースにおいては27年度も引き続いて定員の充足と全員コースを修了し(7人)、国家試験の受験資格を得た。 ・がん看護専門看護師養成コースにおいては、その内容の充実を図り、授業科目を38単位に拡充・変更とする申請を行い、28年度からの実施が認められた。これによりがん専門看護師を目指す学生の今年度に引き続いての高度教育の提供が図られると思われる。 ・保健学研究科では初めてとなる国費外国人留学生特別入学試験を行うため、入試制度を整備しミャンマーからの2人の留学生に対して入試を行った。また28年度から入学することとなる留学生に対しての事前教育、生活支援を目的として担当教員を配置した。 ・英語で行う科目として、博士後期課程コア科目「Introduction course for Health Sciences」を作成した。 ・高度な病理学的知識・技能を備えた臨床検査技師の養成と研究マインドを持った細胞検査士の育成のために博士前期課程コースワークとして「細胞検査士コース」を開設した。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 博士前期課程、後期課程修了者数。 がん看護専門看護師、医学物理士、助産師の資格取得者数。 放射線安全・医療応用学コース、生殖補助医療技術キャリアー養成特別コースの修了者数	
②研究領域 ②-1 目標 本研究科の研究レベル向上のためには博士課程に在学する大学院生の研究レベルの向上が必要であり、これは教員の研究レベルの向上にも繋がる。岡山大学医学部保健学科から研究科への入学を促進する。これにより、将来当研究科の教員になり、教育、研究を行う人材を育成する。 大学院修了後の就職支援(研究者としてのキャリア支援を含む)体制を強化する。当研究科では特に女性の割合が多く、ライフワークバランスを考えた支援を行う。 科学研究費の採択率を維持するとともに、外部資金の獲得に努める。そのためには、学内の医歯薬理工農分野と連携し、共同研究を推進する。特に医歯薬学総合研究科、大学病院との連携を密にする。 科学研究費に関しては教員全員が申請する。 特許の申請を促進する。	自己評価 <ul style="list-style-type: none"> ・保健学研究科に研究開発・推進委員会を設置し、研究科における「研究活動」の方向性の明示、研究科教員・研究グループの研究活性化、国際的な研究活動の推進、研究資金獲得支援、研究活動活性化のために必要な研究実施環境の提言、研究発信とアウトリーチ活動を目的として、各教員、分野の研究業績の把握とともに地域連携領域、国際連携領域、外部資金獲得、産学官連携領域についてこれからの保健学研究科の研究推進の方向性について分析、検討を始めた。 ・28年度の入学予定者は博士前期課程では29人で、博士後期課程での入学予定者は9人であり、概ね達成できている。 ・女性教員の研究者としてのキャリア支援として1名について海外での留学・研修を行った。 ・科学研究費は応募件数 38件、採択率 31.6%、採択件数12件であった。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 保健学研究科博士前期課程への岡山大学医学部保健学科からの入学者数。 学位論文数(英文論文数)。 科学研究費応募数。科学研究費採択率。 特許の申請数、獲得数	
③社会貢献(診療を含む)領域 ③-1 目標 助産師のリカレント教育を発展させる。更に助産師、保健師、保育士、養護教諭に加えて、生殖医療に関わる胚培養士を目指す農学部学生など「妊娠・子育て職能集団」の教育と育成を行う。 教育の場の提供のみならず教育プログラム、e-ラーニングコンテンツの作成などを行う。 県との連携事業(不妊専門相談センター、生殖医療サポーターの会など)を推進し、地域貢献、社会貢献を行う。 Turgut Özal大学(トルコ)との国際交流を行う。特に研究者、留学生の受入に努める。	自己評価 <ul style="list-style-type: none"> ・周産期医療、地域母子保健に関するスタッフのスキルアップ、職場復帰のためのリカレント教育、産科医療における即戦力育成に向けて、助産学生、大学院生と現役助産師とが共に学ぶ中で、世代を越えたコミュニケーション能力を身につけ、離職防止を図る目的で「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムを計画し、20人の履修者を選定し養成を行った。 ・国際交流として留学生受け入れのため、大連医科大学(中国)大学院とのO-NECUS(岡山大学-中国東北部大学院留学生交流)プログラム協定における短期留学制度に関する附属文書を作成し、準備を開始した。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 「妊娠・子育て職能集団の育成プラン」への登録者数。	
・全体的にみて年度目標はほぼ達成できたと考える。研究面においては今年度に発足させた研究開発・推進委員会による研究科全体の状況の把握、検討をし、研究面での活発化を目指して研究助成などの対応を進めて行く。	